

第 66 回山口大学医師会・山口大学医学部主催 医師教育講座（体験学習）

「日常臨床におけるエコー検査の活用法」

と き 平成 30 年 1 月 28 日（日）9：00～12：35

ところ 講義：山口大学医学部附属病院 新中央診療棟 1 階 多目的室 2

実習： 同 心エコー室・腹部エコー室

指導印象記

山口大学医学部附属病院超音波センター

佐伯 一成

平成 30 年 1 月 28 日、山口大学医学部附属病院 新中央診療棟 1 階 多目的室 2 において、山口大学大学院医学系研究科 臨床検査・腫瘍学講座の担当により「第 66 回山口大学医師会・山口大学医学部主催医師教育講座（体験学習）」を開催させていただきました。今回のメインテーマは「日常臨床におけるエコー検査の活用法」として心エコー・腹部エコーを「日常臨床に活かす！」ことを目標にしました。

山崎隆弘 教授からの開会の挨拶に始まり、講義および実習の 2 段仕立てでスケジュールを組みました。講義前半は心エコー室から和田靖明 講師が行いました。難しいドップラーイメージは抜きにして B-mode と M-mode だけで診断できる心エコーの面白さを講義しました。エコーの手軽さからプローブ操作に始まり、基本断面についての説明がありました。基本的な傍胸骨アプローチの重要性について強調されており、そこから得られる情報について勉強しました。大動脈弁の石灰化や開き具合から狭窄が疑えること、壁の厚さや心房・心室の拡大から心筋症や心不全を考えるとなどの説明がありました。その他、左室短軸像での壁運動を見て虚血を評価する上で、冠動脈の解剖を意識することが重要であることの説明がありました。ドップラーを使わなくても、B・M-mode と距離計測だけで得られる所見の多いことに驚きました。講義後半は腹部エコー室から私（佐伯）が担当しました。消化器領域でルーチン

とする肝臓・胆嚢・膵臓にフォーカスを当て、肝臓ではクイノー分類の区域の判断の仕方から肝細胞癌の所見の特徴を説明しました。胆嚢では体位変換や高周波プローブの有用性を強調し、胆嚢炎や胆石の診断について紹介しました。膵臓は膵頭－膵鉤部が意外と長いこと、膵尾部は左肋間操作での脾門部アプローチを紹介しました。

後半は参加者の先生方の希望を聞き、心エコー室・腹部エコー室に分かれてそれぞれの体験実習を行いました。心エコー室では、まず、血管内 Volume 推定に有用な下大静脈径の計測や傍胸骨および心尖部アプローチによる基本断面での観察をしていただきました。また、経カテーテルの大動脈弁留置術といった新たな治療選択が増えたことで、適応患者の幅が広がりつつある大動脈弁狭窄症の評価や左室径・左室壁計測による左室駆出率や心筋重量算出などの、外来診療にてお役にいただけると思われる内容を中心に、ハンズオンにて体験していただきました。

一方、腹部エコー室ではそれぞれの先生方にプローブを握っていただき、ルーチン検査としての膵臓の観察から総胆管の描出、肝臓のクイノー分類の判断の仕方について実習していただきました。机上の説明だけでは伝えることが困難であったプローブによる圧迫の程度や微妙なプローブ操作による脈管の描出などを実感していただけたのではないかと考えております。

参加された先生方の専門は多岐にわたっており、興味を持っていただけるポイントを絞ることに苦慮しました。期待値を充足するものであればよかったと心配しておりましたが、多くの先生方

に実際のエコー検査を感じていただき、嬉しい限りでした。明日からの日常診療において、「あっ、そういえば・・・エコーを当ててみようかな？」と少しでも思っていたいただければ幸いです。

体験学習終了後には、再び多目的室 2 へ移動し、山崎教授より挨拶があった後、受講証の授与が行われ終了となりました。参加していただいた多くの先生方におかれましては、積極的に取り組んでいただき、まことにありがとうございました。エコー検査はその侵襲性の低さと手軽さ、得られる情報量の多さから総合病院・クリニックを問わず日常診療になくはないモダリティです。そのメリットを紹介させていただく機会をいただきました、県医師会の関係者の皆様にお礼を申し上げ、印象記を閉じさせていただきたいと思いません。

受講印象記

岩国市 岡山 智亮

「日常臨床におけるエコー検査の活用法」と題された、第 66 回山口大学医師会・山口大学医学部主催医師教育講座（体験学習）が開催されました。日常診療でエコー検査を実施しているものの開業医となつてからはなかなか自分のエコーに対して自信が持てない部分もありました。今回は実習もあり、さらに心エコーと腹部エコーを同時に学べるということで良い機会だと思い参加させていただきました。

まず、はじめに山崎隆弘 教授から開会のご挨拶がありました。

講義 1 では、和田靖明 先生から心エコーを中心に話をいただきました。心エコーを実施する上での被検者の体位やプローブ操作といった内容から、心機能の評価方法をアプローチごとに教えて頂きとても理解しやすい内容でした。心機能評価に関しては LVDd/BSA、LVEF の日本人のデータの説明、左室肥大の評価、局所壁運動の異常などエコーで得られる情報を講義いただきました。また、心臓周囲から得られる情報も重要ということで、特に 60 歳以上で高血圧をきたしている方のなかには腹部動脈瘤を合併している方が多く、スクリーニングとして「ちょいあて」で腹部大動

脈にもエコーをあてることで大きなリスクを防ぐことができるということを聞かせていただき、とても印象深かったです。短時間のエコーで心機能の評価や心臓周囲の確認をしていくコツを教えていただき、日常診療においてぜひ活用していきたいと思える内容でした。

講義 2 では、佐伯一成 先生から肝・胆・膵領域を中心に話をいただきました。まず、肝臓では Couinaud 分類をエコーで同定するための指標を教えていただきました。続いて、脂肪肝・肝炎・肝硬変・肝腫瘍のそれぞれのエコーでの所見を示してもらいました。また、2007 年から行われるようになったソナゾイドを使った造影エコーでは、投与 10 分以降で肝類洞壁にある Kupffer 細胞に貪食されることで肝腫瘍の診断に利用できること、気管支喘息や腎障害を持った症例にも使用できることを学びました。胆嚢では胆石とポリープの鑑別の仕方から胆嚢炎・胆嚢癌の所見を、そのほかにも胆管癌や膵臓癌の所見も学ぶことができました。実際の症例の画像を多く見せてもらうことができ、印象に残る内容でとても参考になりました。

後半では、心エコーグループと腹部エコーグループとに分かれエコーの実習を行いました。私は心エコーグループに参加しました。実習では経験豊かな先生方からプローブを直接手に持ちながら前半の講義の内容に沿って教えていただきました。心窩部アプローチ、傍胸骨アプローチ、心尖部アプローチと順を追って描出のコツを学びました。自分がプローブをあてている横で講師の先生にみてもらえることで、普段の自分の悪い癖を確認することができました。講習が終わり、いくらか日にちが経ちましたが、講習前と比べて自分のエコーが少し進歩できたかなと感じています。

今回の体験学習では臨床検査医学、臨床検査部、超音波センターの各先生方には貴重な時間をいただき、とても有意義な講習を受けることができました。今回学んだエコーの技術を日常診療でも活用していきたいと思えます。最後になりましたがこのような素晴らしい講習会を開催していただき本当にありがとうございました。